

ある日、交流のあった
〈呪印者〉の消息が途絶えた。
夢で見た黄泉に通じる洞窟。
怪しげなスピリチュアル団体。
そして、最後の災い……。
〈十の災い〉を乗り越えた、
その先に待つものとは？

呪印感染

テーブルトークRPG
シナリオ

ひえだ こうすけ
文 ■ 稗田 浩介

シナリオ『よみきた黄泉より来る』

概要

ある日、SNSで交流のあった〈呪印者〉を探す書き込みを見つけます。その夜、PCたちは、大切な故人が黒い不定形の怪異に姿を変えて襲って来る悪夢を見ます。夢から覚めたPCの手には、最後の〈呪印〉が刻まれていました。

〈呪印者〉が消息を絶つ直前に調べていた村へと向かったPCたちは、あやしいスピリチュアル団体と、黄泉につながる洞窟にたどり着きます。PCたちは最後の〈十の災い〉を退け、願いを叶えることができるでしょうか？

特別ルール

このシナリオでは、「都市」と「田舎」2つの[場所表]を使用します。PCは[シーン：邂逅]の開始時にどちらかの[場所表]を選び、全員その[場所表]を使用します。

▲が記された[キーワード]は、その[解決フェイズ]の[シーン：邂逅]で[場所表「田舎」]を使用していなければ[調査]できません。これは、その[キーワード]が現地に行けなければ調べることができないことを表わしています。

GMは[導入]の最後にこれらのルールを説明してください。

登場NPC

ひやまみつき
樋山美月

年齢：24歳 性別：女性

病院に勤務する看護師で、落ち着いた柔らかな雰囲気を持った優しい性格です。〈呪印者〉で、PCたちとは〈十の災い〉を乗り越えるべく情報交換を行ってきた知り合いですが、PCたちとは直接の面識はなく、SNSでの交流しかありません。SNSでは、“もちつき兎”のハンドルネームを使っています。

ひやまひなた
樋山日向

年齢：18歳 性別：女性

美月の妹で、大学生です。好奇心旺盛で社交的な性格ですが、甘えん坊で、お姉ちゃんっ子な一面もあります。〈呪印

者〉ではなく、オカルト関係の知識は人並みです。SNSでは、“サンフラワー”のハンドルネームを使っています。

参加者とPC

このシナリオは、呪印感染ストーリー&データ集「十の災い」(以下十災と表記)のキャンペーンシナリオ中、「キャンペーンの終了について」の項目が該当した際、十災掲載の第十話の代わりとして遊べるように調整されています。このシナリオを遊ぶ際には十災が必要となりますのでご注意ください。

また、単発シナリオとしても遊ぶことができます。その場合、このシナリオはGM1名、[呪印]9画のPC最小2体~最大4体に対応しています。PCの[呪印]数が9画未満の場合、GMは[呪印]の画数に応じ[正体]の数を調整してください。

このシナリオのPCは知り合い同士です。また、[呪印感染]によって〈呪印者〉となった、元[大切な人]のPCが参加していることが推奨されます。GMは該当するPCからPC①を決定してください(いなくてもプレイは可能です)。

[場所表]

このシナリオは、[場所表「都市」](基本P264)と、[場所表「田舎」](基本P265)を使用します。

〈なにか〉の正体

このシナリオに登場する〈なにか〉は、賽川村にある黄泉国^{よみのくに}につながっていると伝わる賽之潜戸^{さいのくへど}から這い出してきた、〈黄泉津穢^{よもつけがれ}〉という黄泉に流された諸々の禍事、罪、穢から生まれた厄病神にも近い悪神のような存在の怪異です。

その外見は、人間の大人ほどの大きさの蠢く黒い粘液の塊です。不定形の存在で、目や耳、口などの器官はなく、四肢もありませんが、人間の手足に似た形状の触手を作り出して移動したり、掴んだりすることができます。また、無数に分かれることが可能で、現世である地上に這い出してきている複数の〈黄泉津穢^{よもつけがれ}〉は、すべて一つの〈黄泉津穢^{よもつけがれ}〉の分霊であり、

その存在の大部分はいまだ黄泉国にあります。仮に、そのすべてが地上(現世)に現れたとしたら、一般人では到底対処することなどかなわない強大すぎる存在です。

分霊の〈黄泉津穢〉は、陽の光を苦手としており、晒されるだけで身を灼かれ、灰となって消えてしまいます。また、黄泉の瘴気が届かない場所では存在できません。そのため、地上(現世)では人間の体内に入り込んで融合し、入れ物とします。その状態では入れ物の身体能力による制限を受けますが、陽の光で灼かれることはなくなります。また、黄泉の瘴気が届かない場所でも、陽の光に晒されなければ一日程度ならば存在できます。それでも陽の光が苦手であることは変わらず、陽の光の下では知覚能力や運動能力が著しく低下します。そのため、日中は太陽を避けて屋内に籠り、夜になると活動します。現在は黄泉の瘴気が届くのは賽之潜戸がある賽川村とその周辺のみで、そこから離れることはまずありません。

人間に融合した〈黄泉津穢〉は、暗闇を見通し言語を操れます。また融合した人間の記憶を有し、本人を演じることもできます。ただし、思考や性格などは模倣できず、睡眠や飲食も必要としません。

〈黄泉津穢〉に融合された人間は、魂を食われて死んでしまいます。同時に肉体も変質し、別の存在——怪異へと変わってしまいます。怪異らは入れ物である人間の姿の体が大きな損傷を受けると、人間の姿を維持できなくなり、入れ物の体を飲み込む形で元の不定形の姿へと戻ります。

〈黄泉津穢〉は次の〈正体〉を持っています。

《夜の住人》× 2

シーン: 判明 **コスト:** 「奇・5」 **対象:** 1

効果: 対象は1【フェイス】中、【空白のマス】に自身の名前を記入できず(【乗用車】も使用不可、【大切な人】は含まない)、さらに【希望】—【夜の住人】を取得した数。

《恐るべき群体》× 1

シーン: 恐怖 **コスト:** 「奇・奇」 **対象:** 使用者

効果: 対象は【恐るべき群体】を取得した数+1 dの【宿命】を「1」の出目に変更。

《肉体》× 2

シーン: 恐怖 **コスト:** 「連番」 **対象:** 使用者

効果: 対象は【恐怖表】の【効果算出】+【《肉体》】を取得した数+1 d。

《自由自在》× 1

シーン: 恐怖 **コスト:** 「偶・5」 **対象:** 1

効果: 効果: 対象は【恐怖表】の出目を±【《自由自在》】を取得した数】の範囲で変更できる(最小2、最大12)。

●《神性存在》× 1

シーン: 恐怖 **コスト:** なし **対象:** 使用者

効果: 1 シナリオ中1回、対象は、PCが★【イベント】に【挑戦】を開始した際に使用。【宿命】の上限を+1する(【宿命】はその場で振り足す)。この【正体】は他の【シーン: 恐怖】の【正体】と同時に使用できる。

【事件フェイス】

導入

【日常】の数日後、PC①は何度も利用している呪印者コミュニティのSNSに書き込まれた、気になるメッセージを見かけます。それは「もちつき兔を探しています。心当たりのある方はDMください」というものです。

PC①は、「もちつき兔」というハンドルネームを使っている人物に心当たりがあります。「もちつき兔」は、PCたちと同じ〈呪印者〉で、〈十の災い〉を乗り越えるべく何度か情報交換を行ってきたSNS上の知り合いです。ここ1か月ほど交流はなく、SNSへの書き込みも見かけませんでしたが、〈十の災い〉は、数ヵ月や場合によっては年単位で間隔があく場合もあるため、さほど気にも留めていませんでした。PCは「もちつき兔」が1、2か月ほど前に呪印者コミュニティのSNSで「賽川村」と「面影之会」について尋ねていたのを思い出します。また、以前に〈十の災い〉に関係した個人的なメッセージのやりとりの中で、「死者と会う方法」を探していたことを知っています。

GMは、PC①にメッセージの人物にDMを送るかどうかを確認してください。他のPCと相談して、PC①以外がDMを送ってもかまいません。

PCがDMを送ると、すぐに返信があります。相手は樋山日向と名乗り、姉である「もちつき兔」こと樋山美月の行方を知りませんかと尋ねてきます。PCが詳しい事情を尋ねるか、心当たりがあるもしくは、SNSで交流があったことを伝えたと、明日の午後にPCたちの都合の良い場所で会って話をさせていただきますと返信があります。

GMは、PCに樋山日向と会う約束をするかどうかを確認してください。

その夜、PCは全員夢を見ます。PCが樋山日向にDMを送ったかや、彼女と会う約束をしたかは関係ありません。

PCは、夢の中で見知らぬ場所に立っています。海岸沿いにある切り立った崖のそばで、目の前には大人がどうにか立って入れる程の大きさの天然の洞窟が口を開けています。

その洞窟の入り口には、大切な故人が立っています。そこに立っている大切な故人が誰になるかはPCしだいです。以前のシナリオで死亡したPCから【呪印感染】した【大切な人】がPCとなったキャラクターなら、その死亡したPCとなります。それ以外のPCは、親しくしていた故人がいるならばその人物となります。いないなら、そのPCの前には、黒い水で形作られたような人の形をした何かが現れます。

目の前に現れた故人は、PCに優しく微笑みかけて、ゆっくりと近づいてきます。そして、手の届きそうな距離まで来た瞬間、その体の内側から粘液の様な黒い水が沸き立つようにあふれ出します。人の形が崩れ、その塊から無数の人間の手にも似た触手が生え出ると、凄まじい力でPCを捕えます。その腕から逃れようとしても、人間の力ではびくともしません。PCはその腕にゆっくりと引き寄せられると、抱きしめられるようにして黒い粘液の塊の中へと取り込まれます。その中でPCは、自分の体内にそれが入り込み、ゆっくりと自分が人ではない何かに変えられていく恐怖を味わいます。そして、意識が途切れたと感じた瞬間、目を覚まします。

目を覚ましたPCは、全身が冷や汗で濡れていることに気がきます。先ほどの出来事が夢であったことは認識できますが、夢とは思えないほどはっきりとした感覚が体に残っています。

次の瞬間、PCそれぞれの利き手の甲に鋭い痛みが走り、最後の画となる青い勾玉型の「呪印」が刻まれます。

PCたちがどのような反応をするにせよ、ここで「導入」を終了させます。

【解決フェイズ】

このシナリオでは、「解決フェイズ」中の状況に応じて、次のシーンが発生します。

【シーン：GM】／最初の【シーン：邂逅】、榎山日向と会う約束をしている

このシーンは、「導入」で榎山日向と会う約束をしている場合、最初の【シーン：邂逅】の最後に発生します。

連絡を取った翌日の午後、PCが指定した場所に榎山日向がやってきます。日向は改めて自己紹介をすると、榎山美月の写真を見せながら、姉が2週間前から行方不明となっていることを説明します。日向は、姉が行方不明となるまで〈呪印者〉であったことを知らず、〈呪印感染〉についてもよくある都市伝説の一つだという認識でした。日向に「呪印」は感染しておらず、〈呪印者〉ではありません。

1年前、美月の人生を大きく変える出来事が起こります。それは美月が当時交際していた男性が、郊外に放置された廃車の中で自殺しているのが発見されるという事件でした。現場の状況から自殺は疑いようがないものの、遺書は見られず自殺の原因は最後までわかりませんでした。

そのすぐ後から、美月の様子がおかしくなったことに日向は気付きましたが、最初は恋人が自殺したショックのせいだと考えていました。しかし、1年がたっても美月はもとに戻るところかさらにおかしくなる一方で、時折何かに怯えるような様子で自室に閉じこもったり、何かに焦っているかのようないらだちをみせたりと、あきらかに情緒が不安定な様子でした。また、行先も告げずにどこかへ出かけるようなことも度々ありました。

そして2週間前、美月は旅行の準備をして出かけたまま連絡がつかなくなり行方不明となりました。美月の行方を探していた日向は、あるSNSの書き込みに、美月が使っていた“もちつき兔”というハンドルネームを見つけます。それが、PCたちも利用している呪印者コミュニティのSNSでした。日向はそこで、〈呪印感染〉がただの都市伝説ではなかったことを知り、美月が〈呪印者〉だったことに気付いたのです。

日向はこれまでの経緯を説明し終わると、PCたちに美月の行方について何か知っていることがあればおしえてくださいと頼みます。日向もSNSで美月が「賽川村」と「面影之会」について調べていたことは知っています。美月が「死者と会う方法」を探していたことを伝えるなら、日向はPCたちに感謝するでしょう。

次に、日向は賽川村と面影之会について、自分で調べたことをPCたちに説明し、意見を求めます。

賽川村は、W県内の小さな町にある、海沿いの辺鄙な集落

です。面影之会は、その賽川村を活動拠点としているスピリチュアル団体で、「故人と話せる」体験を喧伝しています。宗教を名乗っていないが、実態はそれに近い団体ようだと言われ日向は感想を述べます。

それから、ネットで集めたいい賽川村と面影之会の写真をいくつか見せてくれますが、その中にPCたちが昨晚夢に見た洞窟の写真があります。ただ、その写真の洞窟の入り口は大きな岩で塞がれており、その岩には注連縄が張られています。写真の洞窟について聞くと、賽川村の海岸沿いの崖にある賽之潜戸という場所で、地元では黄泉国につながっているという言い伝えがあること、現在は面影之会の私有地となっていて立ち入りができないことをおしえてくれます。

日向は、一通り話終えたら、美月のことで気付いたことがあれば連絡をお願いしますと言って連絡先を伝え、今日のお礼を述べると去っていきます。

GMは、シーンの最後に、【物語展開シート】C-1マスに【キーワード：榎山美月の行方】を追加し、【物語展開シート】A-2マスの【キーワード：夢で見た場所】とB-4マスの【キーワード：賽川村と面影之会】を【調査】済みとして、【情報】を公開してください。これによって【イベント】を指定することや、【関係性】を結ぶことはできません。

【シーン：GM】／最初の【シーン：邂逅】、榎山日向と会う約束をしなかった

このシーンは、「導入」で榎山日向と連絡をとらなかった、もしくは会う約束をしなかった場合、最初の【シーン：邂逅】の最後に発生します。

GMは、描写を読み上げてください。

描写

昨夜見たあの夢は何だったのだろうか？

視線を向けた利き手の甲には、新たに刻まれた「呪印」が確かにあり、端から赤く染まり始めている。

とにかく、唯一の手がかりである、夢で見たあの洞窟の場所を突き止めなくては。

GMは、描写を読み上げた後、【物語展開シート】A-2マスの【キーワード：夢で見た場所】を【調査】しない限り、他の【キーワード】を調査することができないことを伝えてください。

【シーン：GM】／【場所表「田舎」】が選ばれた

このシーンは、【シーン：邂逅】で【場所表「田舎」】を使用することを選んだら、【場所表】を振る前に発生します。このシーンが発生するのは、最初の一度のみです。

PCたちは、現地で調査するため賽川村へと向かいます。

PCが榎山日向と会っている場合、PCたちが賽川村へと向かう直前に、日向から姉を探すために賽川村に行くと連絡があります。PCたちが一緒に行動をすることを提案した場合、彼女は喜んで同意します。日向が賽川村へ行くのを止めようとするならば、代わりに美月を探すと提案しない限り説得はできません。ここでPCたちが日向と一緒に行動をせず、止めることもしない場合、彼女は一人で賽川村へと向かい、それ以降連絡が取れなくなります。

いずれの場合でも、GMは説明後、次の描写を読み上げてください。

描写

賽川村は、海岸沿いの山がちな土地にある小さな集落だった。三方を山に囲まれて大部分は山林であり、海岸に面した狭い平地に人家がまとまって建っている。

山道を抜けて集落へと入った途端、体にまとわりつくような重く湿ったような雰囲気を感じて全身が栗立った。

集落を通る道路沿いには、何十年も前に建てられたのだろう古臭い家屋がぼつぼつと並んでいる。そのほとんどは空き家のようで、何年も手入れがされないまま風雨にさらされ朽ちかけているものが見えた。

中心部に近づく、と、改修されたとおぼしき家屋がいくつか見えてくる。集落内は不気味なほど静まり返っており、屋外に人の姿は見当たらない。だが、確かに住人の気配はあり、先ほどから誰かに見られているような視線を感じる。

さらに少し進むと、大きな家屋を改修して作られた神社にも似た外見の面影之会の施設が見えて来た。その入り口の大きな白木の門は閉ざされており、施設内に人の気配はあるが、声をかけても反応はなかった。

次に、賽之瀬戸がある海岸へと向かってみたが、その途中で背の高い鉄製のフェンスに行く手を阻まれた。フェンスには、「この先私有地につき立ち入りを禁ずる 面影之会」と記された看板が取り付けられており、所々には監視カメラが設置されているのが見えた。

フェンス沿いに少し進んでみたが途切れることなく続いており、フェンスを通り抜けて賽之瀬戸に向かうことはできなさそう。まずは他に調べられそうなことを優先した方がよいだろう。

[シーン：GM]／[場所表「田舎」]を選んだフェイズの[シーン：恐怖]

このシーンは、[シーン：邂逅]で[場所表「田舎」]を使用することを選んだら、そのフェイズの[シーン：恐怖]の開始直後、[恐怖表]を振る前に発生します。このシーンが発生するのは、最初の一度のみです。

PCたちが賽川村で調査を進めていると、やがて陽が沈み、夜が訪れます。

夜の賽川村は、街灯がほとんどなく真っ暗で、道路に数か所だけある信号機は、薄暗い赤信号を点滅し続けています。人が住んでいるとおぼしき家屋は日が暮れてからも明かりが点くことはなく、面影之会の施設も、数か所に仄暗い明かりが灯るだけです。PCたちが行動しようと思うなら、明かりがなければ何もできないでしょう。

そんな中、PCたちは集落のあちこちで気配を感じます。気配に注意を向けると、暗闇の中、遠巻きにPCたちをつけ回す、集落の住人らしき複数の人影を目撃します。

PCたちがそれに気づいたそぶりをみせるか、声をかけたり、明かりを向けたりすれば、住人たちは声も発せず一斉に暗がりから飛び出し、PCたちを捕まえようと襲ってきます。

もし、PCたちが気づかない振りを続けるなら、しばらく住人たちは遠巻きにつけ回すだけですが、その数は次第に増

えていきます。そして、十分な人数が揃ったら、一斉にPCたちに襲いかかってきます。

住人たちは誰一人明かりを持たず、暗闇を苦にする様子もありません。彼らは皆様に能面のような表情を浮かべ、PCたちを襲うときですら誰一人声も上げません。また、住人は拳で殴られた程度では怯まず、他の住人もそれを気にするそぶりも見せません。強い光を顔に向けられると明らかに嫌がって怯みます。樋山美月の車から桃の香水を持ち出しているなら、香水をつけているPCには襲いかかるうとはせず、香水をあびせかければ悲鳴を上げて退きます。

PCが逃げようとするならば、何度か住人に掴みかかれながらも、互いに手助けして逃げることが出来ます。樋山日向を連れていた場合、日向もPCと一緒に逃げられます。

PCが逃げようとし、GMは住人たちが明らかに異様であることを説明し、捕まればどうなるかわからないことを伝えて、その場から逃げるように進めてください。

[特殊イベント]：PC全員が[命運]－2d。PCがライトなどの明かりで住人を牽制する演出をしたなら、特殊イベントは「PC全員が[命運]－1d。」に変更。桃の香水を利用した場合、この特殊イベントは無視できる。

[シーン：GM]／「▲崖下の車」の[調査]後

このシーンは、[キーワード：▲崖下の車]の[情報]確認後に発生します。

PCたちは、崖下に転落している車を確認するため、道を探して崖下の森の中へと向かいます。

樋山日向を連れてきているなら、崖下の車が、樋山美月が乗っているのと同じ車種と色であることがわかります。日向は不安と心配で落ちつかない様子ですが、ひとりで先走ることなくPCたちと一緒に行動します。

車が転落しているのは深い森の中で、道などないために徒歩で向かうことになります。PCたちは、数時間かけてようやく、転落した車にたどり着きます。

崖下の車は、横転して車体の至るところがひしゃげており、窓ガラスもほとんどが割れて残っていません。周辺にはいくつかの車のパーツが散らばっており、状況から見ても、崖下から転落したのは間違いなさそうです。座席のエアバッグはすべて作動していますが、車内に人影はなく、血痕なども見当たりません。車の周囲にも、人の姿や、誰かがいた痕跡はありません。日向がいるならば、安堵の息について「よかった」とつぶやきます。

車に近づく、と、車内から甘い桃の香りがすることに気がきます。車内には、着替えの入ったバックパック、寝袋、LEDランタンなど、いくつかの荷物が残されています。日向がいるなら、車内の様子や残された荷物から、この車が美月のものであることがわかります。

車内には、携帯電話や財布、車のキーなどはありません。また、半分ほど使用した香水の瓶が残されています。天然の桃の香料を使用した女性向けの香水で、まだ全員が使用できる十分な量が残っています。日向がいるなら、美月は仕事柄香水をつけないと話します。車内に残った桃の香りはかなり強い、と、香水の瓶から漏れ出たものではなく、意図的に車内に撒かれたことが推測できます。

【特殊イベント】：桃の香水を使用したPCは、1 シナリオ中
【シーン：恐怖】時の【効果軽減】+1 d。

【シーン：GM】／「▲賽之港戸」の【調査】後

このシーンは、[キーワード：▲賽之港戸]の[情報]確認後に発生します。また、[キーワード：樋山美月の行方]を[調査]済か否かで、描写1後の展開が変わります。

GMは、PCに賽之港戸に入るかどうかを確認してください。入ると答えた場合、GMは次の描写1を読み上げてください。入らないと答えた場合は、[シーン：GM]を終了してください。

描写1

賽之港戸の入り口に立つと、中から吹き出す風を感じる。
湿り気を帯びてまとわりつくように重く、生暖かくも冷たくも感じるそれに、自然と肌が粟立ち、冷や汗が背中を伝う。
洞窟のある崖は海岸から少し離れているため、満潮時でも潮がとどくことはないはずだが、洞窟の壁は濡らしたように湿り気を帯び、触れるとひやりと冷たい。
意を決して、中へと足を踏み入れる。
洞窟は緩やかに曲がりくねりながら、地下へと下っていく。
どれくらい進んだだろうか……奥から潮の匂いが流れてきた。
ほどなくして洞窟は、平坦でひらけた空間へと繋がった。
踏み入れた足元が、びしゃり、と音を立てる。
岩肌の床は一面が水で濡れていた。
その部屋の中程から奥の床は、深く落ち込んでそこに水が溜まっている。

濃密な潮の匂いに、それが海水であることがわかった。
床を濡らす水は奥の海水溜まりから溢れてきたものだろう。
その底は深くで暗く、明かりで照らしても底は見えない。
海水溜まりの手前には、木材で建てられた小さな社があった。
社の四方には白木の柱が立てられ、社を囲むように注連縄が張られている。

【樋山美月の行方】を【調査】済

社に近づくと、ふっと桃の香りが鼻に届いた。

【樋山美月の行方】を【調査】していない

社に近づくと、生臭い異臭が鼻に届いた。

「樋山美月の行方」を[調査]済の場合、下記の演出を続けてください。

PCが社の扉を開けると、強い桃の香りが広がり、中には若い女性がうずくまっています。女性はかなりやつれてはいませんが、樋山日向に写真を見せられた姉、美月に間違いはありません。美月の右手の甲には十画の[呪印]が刻まれており、そのすべてが赤く染まっています。

日向がその場にいるならば、真っ先に美月に駆け寄り、体を揺すって声をかけます。

美月は、声をかけられるか揺り動かされると、意識を取り戻してうっすらと目をあけます。美月は、日向がいるならば自分を探しにきたのだろうことを察します。そうでなければ、PCたちに何者であるかを尋ねます。PCが偽らずに事情を話せば美月は疑わずに納得します。

美月はPCたちが面影之会の関係者ではないことを確認すると、「あの化け物を、黄泉へと返して……」と言い、携帯端

末を取り出すと、保存していた動画を再生して見せます。

GMは、描写2を読み上げてください。

「樋山美月の行方」を[調査]していない場合、下記の演出を続けてください。

PCが社の扉を開けると、生臭い異臭が広がり、わずかに混ざった桃の甘い香りがします。社の中には若い女性がうずくまっており、足元には乾ききっていない血だまりが広がっています。女性は腹部の深い傷から出血しており、既に亡くなっています。その右手の甲には十画の[呪印]が刻まれており、そのすべてが赤く染まっています。

日向がその場にいるならば、「お姉ちゃん!」と叫んで女性に縋りついて泣き出します。女性は樋山美月です。

女性の左手には、携帯端末が握られています。画面ロックの機能は解除されており、画面を点灯させると動画ファイルが表示されます。

PCがその動画を再生するなら、GMは、描写2を読み上げてください。

【特殊イベント】：PC全員は、【希望】-2。樋山日向が一緒にいる場合、さらに【希望】-2。

描写2

揺れる篝火に照らされ、左右に白い陣幕のような大きな布が張られた仄暗い部屋が映る。

その幕の間に置かれた正方形の壇の上に、向かい合った椅子に座るスーツ姿の1人の中年男性と、巫女の装束にも似た紅色の袴に白衣姿の1人の女性——配信映像などで目にした面影之会の代表、高天原言子の姿がある。

その他にも数名の男女が、皆一様に白い装束を身に着け、壇の外側に控えるようにして立っていた。

幕から漏れる明かりがその部屋の岩肌を陰影で浮かび上げらせ、奥に広がる潮溜まりは陰に沈んで闇を湛えている。

その幕の裏には、四方に白木の柱が立てられた小さな社がわずかに覗いている。

その動画は、賽之港戸の奥——まさしく、この場所で撮られたものだった。

映像から推察すると、撮影場所はちょうどこの部屋の入口あたりで、隠し撮りしたものようだ。

高天原言子が手にした鐘を振ると、甲高い音が鳴り響く。「これから、降霊を執り行います——目を瞑り、会いたい故人の姿を思い浮かべて名を呼びかけてください」

高天原言子の言葉に従って、向かいに座った中年男性が女性の名前を繰り返し唱え始める。

奥の潮溜まりが、静かに波打ち始めた。

ほどなくして、その水面から音もなく白い二本の両腕が突き出し、水辺の床に手をつくると、潮溜まりの中から服を着た若い女性が微かな水音を立てて這い出してきた。

すぐそばで、息をのむような小さな音がして、画面が揺れる。

その中で、潮溜まりから現れたそれは、水音を立ててゆっくりと壇の方へと近づいてくる。

「いらっしやいましたよ」

高天原言子の言葉に、顔を上げた中年男性は驚いたように先ほどまで繰り返していた名をつぶやき、慌てた様子で椅子

から腰を上げると、目の前に立つ女性を抱擁する。

「お父さん……」

女性も中年男性の背中に手を回し——次の瞬間、女性の体の内側から粘液の様な黒い水が沸き立つようにあふれ出した。

人の形が崩れ、その黒い粘液の塊から生え出した無数の人間の手にも似た触手が中年男性の体を捕える。

中年男性はパニックを起こして悲鳴を上げるが、その悲鳴も、黒い粘液の塊に飲み込まれると同時に途絶えた。

やがて、黒い粘液は中年男性の体に染み込んでいくように消え、あとには中年男性の姿だけが残った。

高天原言子が近づき微笑むと、中年男性は能面のような表情を浮かべて頷く。

その直後、間近で悲鳴が上がり、画面が大きくぶれた。

画面に白い服を着た人影のようなものが映り、映像はそこで途切れた。

「榎山美月の行方」を[調査]済の場合、下記の演出を続けてください。

美月は映像が終わると、面影之会の関係者、つまりは賽川村の住人は全て、あの黒い水のような化け物である〈黄泉津穢〉に同化されて怪異へと変じてしまっていることを伝えます。その上で、美月本人も〈黄泉津穢〉に取り憑かれており、この社から出ると完全に同化されて自分ではなくなってしまうだろうと話します。美月は、1週間以上も飲まず食わずの状態でのこの社に籠り続けていますが、今の自分が餓えて死ぬことはなく、その程度には人間でなくなっていることを理解しています。

美月は社の中にうずくまっただまま、体の後ろから細長い白木の手箱を取り出して差し出します。彼女は、その手箱はこの社に奉納されていたもので、黄泉から這い出て来た〈黄泉津穢〉を黄泉に送り返す手段が納められていると説明し、これを使って〈黄泉津穢〉を退治してほしいと願います。

日向がその場にいる場合、〈黄泉津穢〉を退治してしまっただけで美月はどうなるのかと問いかけます。美月は少し困った顔を浮かべて、自分の中の化け物だけが退治されるかもしれないし、化け物と一緒に自分の肉体も消えて死んでしまうかもしれないと答えます。美月は自分を思って泣きじゃくる日向をなだめ、PCたちを手伝ってほしいと説得します。日向はしばらく他の解決方法を探すように姉に求めますが、美月はどちらにせよ[呪印]が赤く染まってしまっていることを話して日向を納得させます。

シーン演出後、GMは[物語展開シート]F-4マスに[キーワード:▲真相③]を追加してください。

「榎山美月の行方」を[調査]していない場合、下記の演出を続けてください。

動画を見終わったPCは、この動画ファイルの後に撮影された別の動画ファイルがあることに気付きます。

シーン演出後、GMは[物語展開シート]E-6マスに[キーワード:▲真相②]を追加してください。

【シーン：GM】／クライマックス①

PCが★[決戦]への[判定]を宣言した直後に、即座に[シ

ン：GM]を発生させて演出します。

以降、[場所表「田舎」]しか使用できなくなり、[シーン：判明]では、★[決戦]への[判定]しか行えなくなります。

GMは説明後、描写を読み上げてください。

描写

万全の準備をして、夜を待つ。

危険だが、こちらから仕掛けるわけにはいかない以上、相手が動く夜を待つほかはない。

陽が沈んで夜になると、周囲に気配がし始めた。

迎え撃つのに都合の良い場所へと向かう。

すると突然、暗がりから一人の住人が、農作業用の鎌を手にも音もなく飛び出してきた。

手にした強力なライトの明かりを浴びせ、怯んだ隙に思いっきり手にした金属バットを振り下ろす。

強い衝撃とともに、鈍い感触が手に伝わった。

殴りつけた頭部はひしゃげ、住人が数歩よろめく。

やりすぎたか——？

そう思った瞬間、その住人のひしゃげた頭部から、粘液の様な黒い水が沸き立つようにあふれ出し、それが全身へと広がると、人の形が崩れ、無数の人間の手にも似た触手が生えた黒い粘液の塊へと姿を変えた！

賽川村の住人は全員もう人ではない(なにか)だ。手加減などする必要はなさそうだ！

PCが、「[シーン：GM]／[場所表「田舎」]が選ばれた」で、榎山日向を一人で賽川村に行かせているならば、以下の描写と[特殊イベント]を追加してください。

描写

襲って来る住人の中に、見知った人影を見つけた。

それは、連絡が取れなくなっていた榎山日向だった。

彼女は、能面のような表情を貼り付け襲い掛かって来た！

【特殊イベント】：PC全員は[命運]ー2d。

【シーン：GM】／クライマックス②

PCが★[過酷な作業]への[判定]を宣言した直後に、即座に[シーン：GM]を発生させて演出します。

以降、[場所]は「潜戸の入り口」となり、[シーン：判明]では★[過酷な作業]への[判定]しか行えなくなります。

GMは説明後、描写を読み上げてください。

描写

賽之潜戸を塞ぐにしても、入り口の脇にある大岩は、数人の力では動かすことはできそうにない。

周辺を探すと、海岸から少し離れた場所に、小型のユニットハウスとショベルカーが置かれているのが目に入った。

ユニットハウスは工事用の現場事務所として使われているらしく、窓から覗くと、休憩用の椅子やテーブルなどの他に、工事用の器材なども置かれ、壁にはショベルカーのキーが掛けられているのが見えた。

窓を割って中に侵入し、ショベルカーのキーと数本のワイヤーロープを盗み出す。

このショベルカーとワイヤーロープを使えば、あの大岩を動かすことができそうだ。

どうにか、ショベルカーを賽之潜戸がある入り江まで動かしたところで、崖の上に大勢の気配を感じた。

見上げると、数十人の白装束の団を従えた高天原言子の姿があった。

「我をまた黄泉へと追いやるつもりか……そうはさせぬぞ！」

高天原言子が怒気をはらんだ言葉を口にし、それが合図だったかのように、白装束の団が襲い掛かって来る。

面影之会の妨害を跳ね除け、何としても賽之潜戸を塞がなくてはならない！

PCが、「[シーン：GM]／[場所表「田舎」]が選ばれた」で、樋山日向を一人で賽川村に行かせているならば、以下の描写と[特殊イベント]を追加してください。

描写

襲って来る白装束の団の中に、見知った人影を見つけた。

それは、連絡が取れなくなっていた樋山日向だった。

彼女は、能面のような表情を貼り付け襲い掛かって来た！

[特殊イベント]：PC全員は[命運]－2d。

[シーン：GM]／クライマックス③

PCが★[儀式行使]への[判定]を宣言した直後に、即座に[シーン：GM]を発生させて演出します。

以降、[場所]は「潜戸の奥」となり、[シーン：判明]では★[儀式行使]への[判定]しか行えなくなります。

GMは説明後、描写を読み上げてください。

描写

日中を待って、賽之潜戸の奥にある社へ向かう。

社の四方に神社でお祓いを受けた塩を盛った小皿を置いて注連縄の結界を強化する。

さらには、周囲に向けて強力な明かりを照射するライトを設置し、可能な限りの対策を調える。

準備を終え、注連縄が張られた柱の内側に入ると、全員で桃の枝を握り、巻物に記された祝詞を奏上する。

儀式を始めてどれぐらいの時間が経っただろうか。

社の中に籠っている樋山美月から警戒を促す言葉が伝えられると、ほどなくして、地上へとつながる洞窟の先から、真っ暗な闇の中を数十人の人影が下って来た。

設置したライトの明かり照らされ、集団の先頭に立つ高天原言子が顔をしかめる。

「我をまた黄泉へと追いやるつもりか……そうはさせぬぞ！」

高天原言子が怒気をはらんだ言葉を口にし、それが合図だったかのように、白装束の団が襲い掛かって来る。

結界を破られるわけにはいかない。唱える祝詞に一層の念を込めた！

PCが、「[シーン：GM]／[場所表「田舎」]が選ばれた」で、樋山日向を一人で賽川村に行かせているならば、以下の描写と[特殊イベント]を追加してください。

描写

襲って来る白装束の団の中に、見知った人影を見つけた。

それは、連絡が取れなくなっていた樋山日向だった。

彼女は、能面のような表情を貼り付け襲い掛かって来た！

[特殊イベント]：PC全員は[命運]－2d。

キーワード

本シナリオのキーワードは次の通りとなります。

A-2：夢に見た場所

B-3：賽川村と面影之会

C-1：樋山美月の行方（追加キーワード）

C-4：高天原言子という人物（追加キーワード）

D-2：▲崖下の車（追加キーワード）

D-5：不穏なうわさ（追加キーワード）

E-3：▲賽之潜戸（追加キーワード）

F-6：▲真相①

E-6：▲真相②（追加キーワード）

F-4：▲真相③（追加キーワード）

キーワードの情報

A-2 情報：夢に見た場所

夢に見た場所は、W県賽川村にある賽之潜戸という場所だった。海岸沿いの崖にあるこの海食洞窟には、黄泉国につながっているという言い伝えがあるという。

全国には、黄泉国や冥界の入り口とされる場所がいくつかある。有名なのは、鳥根県松江市にある黄泉比良坂の伝承の地とされる伊賦夜坂や、同県出雲市にある黄泉の穴とされる猪目洞窟だろう。

猪目洞窟は、『出雲國風土記』に「夢にこの磯の窟の辺に至れば、必ず死ぬ」と記されており、夢でこの洞窟に行くのを見たならば、必ず死んでしまうといわれている。

なお、賽之潜戸は、現在は面影之会という団体の私有地となっており立ち入りできない。

B-3：賽川村と面影之会

賽川村は、W県内の小さな町にある、海沿いの辺鄙な集落だ。8年程前に、当日居住していた最後の住民が過疎を理由に退去したことによって、一時は消滅集落となったが、3年程前に面影之会が集落の土地や建物の大部分を買い取り、その関係者が移住した。現在は、集落に居住する数十名の住民すべてが面影之会の関係者で、同組織の活動拠点となっている。

面影之会は、「故人と話せる」体験を喧伝しているスピリチュアル団体だ。5年程前からスピリチュアル・カウンセラーを名乗ってネットでライブ配信を行っていた高天原言子が開催していたスピリチュアル・セミナーが前身となっている。その後、程なくして彼女のもとに熱心な信奉者が集って団体としての活動を始め、3年前に賽川村に移住して活動の拠点とすると同時に面影之会の名称を使うようになった。宗教を名乗ってはいないが、実態は代表の高天原言子を崇拝する宗教に近い団体のようだ。

なお、面影之会の公式サイトによると、賽川村には黄泉の入り口だと言われている洞窟があり、死者と交流するのに適した土地で霊場として扱っているという。

[物語展開シート] C-4 マスに [キーワード: 高天原言子という人物] を追加する。

C-1: 樋山美月の行方 (追加キーワード)

妹の樋山日向とも連絡を取り合って情報を集めた結果、樋山美月は、一年程前に自殺した〈呪印者〉の恋人から [呪印感染] して〈呪印者〉となったようだ。恋人は〈十の災い〉を退けられずに自殺という非業の終焉を迎えてしまったのだろう。

その後、樋山美月は最低でも一度は〈十の災い〉を乗り越えているが、[呪印] の画数は不明だ。

彼女は、死者と会うための方法を探しており、死んだ恋人にふたたび会いたいと願っていたようだ。賽川村と面影之会について調べていたのはそれが目的であり、少なくともその時点では〈十の災い〉がふりかかっていた様子はなかった。

樋山美月の行動を追跡した結果、面影之会に赴くために賽川村へと向かったことが判明した。それから2週間以上経つが、彼女との連絡は一向につかず、携帯端末も電波が届かない所にあるか電源が入っていない状態だ。

樋山美月の行方を追うなら、あとは実際に賽川村に行ってみるしか方法はなさそうだ。

[物語展開シート] D-2 マスに [キーワード: ▲崖下の車] を追加する。

C-4: 高天原言子という人物 (追加キーワード)

高天原言子がかつて行っていたライブ配信のアーカイブ動画や、スピリチュアル・セミナーの参加者がネットに書き込んだ体験談などを確認すると、彼女は死者と交信することができる霊媒だったようだ。主催していたセミナーは、彼女を介して死者とのコミュニケーションを行う一種の交霊会のような内容だった。彼女が本物の霊媒かどうかは判断できないが、アーカイブ動画やセミナーの体験談を見る限りは、少なくとも参加者は彼女の能力を本物だと感じているようだ。

高天原言子は、面影之会の発足後はライブ配信を行わなくなっている。セミナーはその後も定期的に開催されているが、以前のような交霊の実践を中心としたものではなく、面影之会で行っているスピリチュアル・カウンセリングの事例を紹介し、参加を募るような内容に変化している。以前の彼女には、故人との交流を切に望む人に善意で手助けをしている様子があったが、現在の彼女はスピリチュアル・カウンセリングに高額寄付を要求し、かつての善意からの行動といった様子は見られなくなっている。多くの信奉者を意のままに従えるその姿は、まるでカルトの教祖を思わせる。

高天原言子に接触するには、スピリチュアル・カウンセリングを申し込むのが一番簡単な方法だが、専用サイトを確保すると予約は一か月ほど先までうまっているようだ。

[物語展開シート] D-5 マスに [キーワード: 不穏なうわさ] を追加する。

D-2 情報: ▲崖下の車 (追加キーワード)

賽川村から隣県へとつながる細い山道の崖下に、壊れた1

台の車を発見した。

崖下の車は森の中に横転しており、上から見る限りでも、車体の至るところがひしゃげて大きく損傷しているのがわかる。

遠目に見た限りでは、転落した直後ではないようだが、あまり長い時間が経過している様子もない。

崖上の山道は、車1台が通るのがやっとの細い道で、ガードレールなどは設置されていない。道路脇には車の待避所があり、おそらくここから転落したのだろう。

だか、待避所へ入る手前の道路にはブレーキをかけたようなタイヤの跡は見当たらなかった。そもそも、道幅が狭くスピードを出しづらい直線の道路脇にある待避所から、崖下へと転落することなどあるのだろうか？

すぐにでも警察と消防に連絡するべきだろうが、警察の捜査が始まると関わるのが難しくなる。まずは、先に自分たちで車の様子を確認した方がよいだろう。

この [情報] 確認後、[シーン: GM] が発生する。

D-5 情報: 不穏なうわさ (追加キーワード)

面影之会について、不穏なうわさがいくつか見つかった。

1 か月ほど前から、スピリチュアル・カウンセリングを受けるために面影之会がある賽川村へと赴いた者が、そのまま面影之会に入会して戻って来なくなったという話が複数あった。ネットでは、カルト化した面影之会によって洗脳されたのだという憶測が飛び交っている。

また、2週間ほど前に、面影之会のメンバー数名が深夜の山道で崖から乗用車を突き落とす様子を密かに撮影したとされる動画が、ネットの投稿サイトに上げられて騒ぎとなった。その後、投稿者だった3人の大学生がフェイク動画であることを謝罪して動画を削除したことで騒ぎは収まったが、一部のネットユーザーは、動画はフェイクではなく、投稿者たちは面影之会に脅迫されて嘘の自白をしたのだとうわさしている。その証拠に、投稿者の3人全員が、騒ぎの後に行方不明となっていることが指摘されている。

その他にも、賽川村の周辺で最近多くの野鳥や獣が、特に外傷もないまま死んでいるのが発見されており、その原因が面影之会が撒いた毒物だというものや、面影之会が霊場と呼んでいる賽之潜戸では、毎夜怪しげな儀式が行われているといった、根も葉もないうわさまである。

だか、これだけ不穏なうわさがあるのなら、やはり面影之会には何かあるのだろう。おそらく、面影之会が神聖視する賽之潜戸には、重要な何かが隠されているはずだ。

[物語展開シート] E-3 マスに [キーワード: ▲賽之潜戸] を追加する。

E-3 情報: ▲賽之潜戸 (追加キーワード)

賽之潜戸は面影之会の私有地にあり、「立ち入り禁止」を警告するフェンスを越えて行く必要がある。

意を決して、道を塞ぐフェンスを抜けると、ほどなくして波の音と潮の香りが感じられた。フェンスの先にあった雑木林の細い林道を進むと、唐突に視界が開けて海沿いの崖にたどりついた。崖下を覗き込むと小さな入り江があり、砂利浜の海岸が見える。そのまま道は崖沿いに進み、崖の少し先で傾斜して回り込むような形で崖下へとおりていくと——そこ

には、夢に見たあの洞窟があった。

賽之潜戸の入り口は、大人がどうにか立って入れる程の高さで、幅は大人が両手を広げれば両側の壁に手が届く程だろうか。洞窟の先は地下に向かって傾斜しており、陽の光が差し込まないため、昼間でも闇がわかまっている。

入り口の脇には大きな岩があり、近くには切り落とされた注連縄らしき太い縄が転がっている。注連縄はかなり古いものようだが、切られたのは比較的最近のことのようだ。

この[情報]確認後、[シーン：GM]が発生する。

F-6 情報：▲真相①

面影之会がこちらに敵意を抱いているのは間違いないさそうだ。以前、夜の賽川村で襲撃を受けた時も、明らかにこちらを害する意図が感じられた。

だが、警察に相談したとしても、解決するまでに[呪印]が赤く染まってしまう可能性は高いだろう。

金属バットや木刀などの武器に加え、非常に明るい光を照射できるライトも複数準備した。降りかかる火の粉は自分自身で払わなければ！

[特殊イベント]：★[決戦](基本P276)に[判定]可能

E-6 情報：▲真相②(追加キーワード)

もう一つの動画ファイルは、社の中で死んでいた女性が残した最期のメッセージだった。

「私の、名前は、樋山美月、です……私は、もうすぐ、死ぬ、でしょう……この動画を、見つけてくれた、方……どうか、あの、化け物を……退治、して、ください……岩で、潜戸を、塞いで……」

携帯端末の明かりに照らされた、血の気の失せた顔の女性が、掠れた声で途切れ途切れに言葉を紡ぐ。

「日向……ごめん、ね……お姉、ちゃん、帰れ……なく……て……」

その言葉を最後に画面はあらぬ方向を映して途切れた。

岩で潜戸を塞いで——女性が残したその言葉に、潜戸の入り口の脇にあった大きな岩を思い出す。

それで解決するかはわからないが、いまは他に方法がない。彼女の言葉に賭けてみるしかないだろう。

[特殊イベント]：★[過酷な作業](十災P258)に[判定]可能

F-4 情報：▲真相③(追加キーワード)

樋山美月から託された手箱には、古い巻物と一本の木の枝が納められていた。

美月曰く、その枝は桃の木であり、巻物に記された祝詞を奏上し、意富加牟豆美命を降ろしてその神威を借り受けることで、黄泉の穢れを祓い、〈黄泉津穢〉を退けることができるのだという。

美月は〈黄泉津穢〉と半ば同化しているため、手箱に収められた桃の枝を恐れていることや、祓うための儀式の存在を感覚や知識として感じ取ることができるのだという。

巻物は戦国時代に記されたもののようなのだが、それでも全文を解読するには専門的な知識と時間が必要となる。しかし、儀式に必要な祝詞の部分だけであれば、呪印者コミュニティ

のSNSなどを利用すればそれほど時間をかけずに読めるようになるだろう。

当然、〈黄泉津穢〉の妨害もあるだろう。万全に準備を調べて儀式に挑もう。

[特殊イベント]：PC全員は[希望]+1

[特殊イベント]：★[儀式行使](基本P276)に[判定]可能

【結末フェイズ】

★[決戦]を[クリア]すると、PCたちは賽川村の住人を相手に朝まで戦い抜きます。人の姿を失って黒い粘液のような正体を現した〈黄泉津穢〉は、陽の光を浴びると霧へと変わって溶けるように消えていきます。人の姿を保っていた〈黄泉津穢〉も陽の光を浴びて動きが鈍くなり、PCたちの攻撃によって正体を暴かれて、次々と消えていきます。最後に正体を暴かれた高天原言子は、「次は、逃がさぬぞ」という言葉を残して消えていきます。こうして、PCたちは、誰一人いなくなった賽川村から逃げ延びることができます。

数日後、PCたちは賽川村の住人だった面影之会の関係者全員が、一夜にして謎の失踪をしたというニュース記事を目にします。しかし、その一年後にPCたちは、高天原言子を名乗る人物が面影之会をふたたび発足させたというニュース記事を目にすることになります。

★[過酷な作業]を[クリア]すると、面影之会の妨害をどうにか退けて、賽之潜戸の入り口を大岩で塞ぐことができます。大岩に新しい注連縄をかけると、集落を覆っていた体にまとわりつくような重く湿ったような雰囲気や晴れたことに気がきます。その瞬間、妨害に集まっていた面影之会の人々が、突然人の姿を失って黒い粘液のような正体を現し、陽の光を浴びて霧へと変わり、溶けるように消えていきます。

数日後、PCたちは賽川村の住人だった面影之会の関係者全員が、一夜にして謎の失踪をしたというニュース記事を目にします。

〈十の災い〉を乗り越えた後も、〈呪印感染〉の記憶を残しているPCがいるならば、事件以降、呪印者コミュニティで“もちつき兎”のハンドルネームを見ることはなくなります。

★[儀式行使]を[クリア]すると、PCたちが手にした桃の枝に3輪の花が咲き、それが桃の実になります。PCたちがその桃の実を〈黄泉津穢〉へと投げつけると、潜戸の中に満ちていた黄泉の瘴気は消え失せ、高天原言子は「おのれ、オオカムヅミめ、口惜しや……!」との言葉を残し、黒い粘液のような正体を現したのちに霧に変わって溶けるように消えていきます。その他〈黄泉津穢〉も同様に消えていきます。

樋山美月は、社の中で気絶していますが生きています。その右手の甲にあった[呪印]は消えてなくなっています。その翌日、美月は意識を取り戻しますが、[呪印]にまつわることをすべて忘れてしまっています。ただ、美月は気絶していた間、自殺した恋人と会って話をする夢を見たといいます。

樋山日向は、姉が無事に帰って来たことを喜んで、PCたちに感謝します。その後、しばらく経って、日向からPCたちに連絡があります。それは、最近姉の様子が変だというも

のです。姉はおしえてはくれないが、超能力のような不思議な力が使えるようになったようなのだと日向は話します。

GM向けの説明となりますが、樋山美月は結果的に、PCたちと共に同じく「十の災い」を乗り越えました。彼女は、「故人(死んだ恋人)に一度だけ会いたい」という[願い]をかなえ、【命運】が-1以下となったことで、「最後の災いの後……」にある「結末4:神の呪い」の結果を迎えました。もしPCにも、【命運】が-1以下となり、「結末2」から「結末12」のいずれかを迎えた者がいた場合は、「向こう側」で美月と出会う演出をしてもよいでしょう。

また、いずれの[真相]を[クリア]した場合でも、PCが、「[シーン: GM] / [場所表「田舎」]が選ばれた」で、樋山日向を一人で賽川村に行かせているならば、〈黄泉津穢〉に同化された日向が、黒い粘液と化し、霧となって消えるのを見届けることになります。

いずれの[真相]の結末にせよ、GMは[行動順]に、「最初の災いの後……」(基本P 278)に従って、PCの[願い]がか

なう場面を演出し、「B:【命運】の上昇」の処理をしてください。その結果、【命運】が0以上のPCは[呪印]が鮮やかな黒へと、【命運】が-1以下のPCは、[呪印]が禍々しい赤へと変色します。その後、PCの「結末」に従って[エンディング]を1体ずつ演出してください。

[制限時間]内に★[イベント]を[クリア]できなかった場合、PCたちは自らの[呪印]が禍々しい赤へと変色していることに気がきます。PCたちは、〈黄泉津穢〉に取り込まれて同化され、怪異へと変じてしまいます。

F-6 ●[関係性]	F-5 ○[関係性]	F-4 ○[関係性]	F-3 ○[関係性]	F-2 ○[関係性]	F-1 ○[関係性]
▲真相①		▲真相③ (追加キーワード)			
E-6 ○[関係性]	E-5 ○[関係性]	E-4 ○[関係性]	E-3 ○[関係性]	E-2 ○[関係性]	E-1 ○[関係性]
▲真相② (追加キーワード)			▲賽之潜戸 (追加キーワード)		
D-6 ○[関係性]	D-5 ○[関係性]	D-4 ○[関係性]	D-3 ○[関係性]	D-2 ○[関係性]	D-1 ○[関係性]
	不穏な うわさ (追加キーワード)			▲崖下の車 (追加キーワード)	
C-6 ○[関係性]	C-5 ○[関係性]	C-4 ○[関係性]	C-3 ○[関係性]	C-2 ○[関係性]	C-1 ○[関係性]
		高天原言子 という人物 (追加キーワード)			樋山美月 の行方 (追加キーワード)
B-6 ○[関係性]	B-5 ○[関係性]	B-4 ○[関係性]	B-3 ○[関係性]	B-2 ○[関係性]	B-1 ○[関係性]
			賽川村と 面影之会		
A-6 ○[関係性]	A-5 ○[関係性]	A-4 ○[関係性]	A-3 ○[関係性]	A-2 ○[関係性]	A-1 ●[関係性]
				夢に見た 場所	事件発生